

事業所名		ここなくらぶ				支援プログラム		作成日		令和7年	3月	15日	
法人（事業所）理念		日常生活における生活動作や集団における適応力、基本的な生活習慣の確立といった目立たないけれど、何度も繰り返すことで身につく力を大事にし、「本人支援の5領域」を含めた総合的な支援を基本としています。 制作活動を通じて、「どうせ出来ない」から「出来た」体験を繰り返し「おもしろい」「もっとしたい」の気持ちの動きを大切に、毎日を有意義に過ごすことを目的としています。 決して目立つことをするのではなく、子どもたちの将来の基礎となる力を醸成します。											
支援方針		・生活習慣（生活動作） 生活動作には、食事・排泄・更衣・入浴・整容があります、これらは、成長や発達とともに自然に身につくものではありません。生活している中で、周囲からの適切なサポートと何度も繰り返すことで身につく力です。事業所に来所してから、ご自宅に帰るまでの限られた時間の中、場面場面に合わせた声かけと、適切なサポートを行い、少しずつステップアップしていきます。 ・制作活動 季節感を感じるもの、手のつまみ動作の向上につながるもの、みんなで作るものなど、さまざまな制作活動に取り組んでいます。この活動により、技術面だけでなく、ハサミ等の道具の使い方、後片付けの習慣につながり、周りのお友だちと協力することや役割分担につながる小集団活動を体験しています。 ・その他の活動 それぞれの発達状態や特徴、個性に合わせた関わりを持つことで、有意義な時間を過ごしてほしいと考えています。お誕生日のお友だちのお祝いをしたり、公共交通機関を使用して出かけたり、いざという時、自分の身を守るための避難訓練や感染症対策を行っています。											
営業時間		平日 休日	12 9	時	00 00	分から	20 17	時	00 00	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	・自分で上着を脱ぐ。（気温に合わせた服装） ・下校時（来所時）、帰宅前の準備を行う。（挨拶・手洗いうがい・荷物の整理） ・室内を清潔に保ち、温度調整をすることで快適な空間をつくる。 ・時間に応じた行動の切り替えが出来るよう、具体的な時間、指差し等で次の行動を伝える。 ・顔色、声色、動きを観察し、健康状態を把握する											
	運動・感覚	・制作活動時、様々な素材に触れることで、質感や重量を感じることが出来る。（絵の具、のり、ねんど、洗濯のり、布等） ・季節折々の壁面制作に取り組むことで情緒を刺激する。 ・制作活動時に使用する道具（はさみや絵の具、ラミネート等）の正しい使い方を学ぶ。 ・机に向かう時の姿勢、片方に偏っていないか、片膝を立てていないかの確認をしながら、姿勢保持を行う。 ・カードゲーム、小さなブロック、パズル等を取り入れることで、手の動きや、視線、考える、想像するといった発達を促す。											
	認知・行動	・目に見えない領域の発達であるため、スモールステップであることを基本と考える。 ・行動形成のため、少人数グループで自分の順番が来るのを待つことが出来るようになる。 ・おやつを自分で選ぶことで、選択・決定を行う。（50円の設定をしており、10円のもの2つと30円のもの1つで合わせて50円になるという数の概念も認識する） ・ブロック遊びを通じた空間認識、ねんどやスライム作り等で物質の変化や感覚を感じる。 ・制作活動やおやつ作りの中で使用する危険なもの（カッター、包丁、ホットプレート等）が、どのようなものかを認知する。											
	言語 コミュニケーション	・物の貸し借りをすることで、自分以外の人を意識できる。 ・異年齢、別の学校のお友だちとの遊びを通じて、違う環境下の中での関わりを感じる。 ・指差しや肩たたき等の言葉以外の関わりを見つけ。（手段の選択） ・感情の表出時、思いを言語化することで安心感を伝え、言葉の発達を促す。（○○って考えたんやね　○○であってのかな等） ・「貸して」「どうぞ」「ありがとう」「ごめんね」「いいよ」といった忘れがちな日常生活における必要な言葉を身につける。											
	人間関係 社会性	・同じ活動に参加することで「みんな」で作る楽しさを感じる。 ・車両の乗降、社内での過ごし方を身につける。 ・公共交通機関や車両を利用し出かけ、公共の場での動き方を身につける。 ・ごっこ遊びを通じて、家の人や自分以外の動きをまねることで、社会性、対人関係に興味をもつ気づきの機会にする。 ・制作活動等の役割分担をすることで、自身が集団に必要な一人であることを体感する。 ・ルールを理解し「みんなで楽しむ」経験を積み、集団に対応していく。											
家族支援		・子どもに関する情報の共有と定期的な支援見直しを行うことで、家族が安心して子育てが出来るよう、少しでも負担が軽減できるようにしたい。				移行支援		・移行先と、支援内容、子どもの情報、保護者の意向等についてすみやかに情報共有を行う。（担当者会議の開催、出席）					
地域支援・地域連携		・各関係機関との適切な連携、個別ケース会議への出席				職員の質の向上		・各種研修への参加、資格取得支援を行い向上につとめる。					
主な行事等		・毎月、日本の伝統文化を感じることが出来る行事を設定。（お正月・節分・桃の節句・手作り夏まつり等） ・博物館や大きな公園、動物園、味覚狩り等の外出。 ・誕生日会や入学入園、卒業のお祝い会と年末には茶話会として1年の振り返りを行っている。											